

令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」 分担研究報告書

多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究

研究分担者：高橋宏和 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター センター長 特任教授

研究協力者：磯田広史 同上 副センター長 助教

大枝敏 同上 講師

原なぎさ 同上 助教

今泉龍之介 同上 相談員

常陸頤悟 同上 相談員

井上香 佐賀大学医学部附属病院 地域医療科学教育研究センター 助教

研究要旨

全国で肝炎医療コーディネーター（以下、肝Co）の養成が進められており、佐賀県でもこれまでに2,400名を超える肝Coが養成され県内で活躍している。今後もさらに養成数は増加していく見込みだが、肝Coの連絡先や職場・所属先などの登録情報の管理には、新たな課題が出てきている。肝Coの異動や転職、また各医療機関が肝Coの在籍を把握していない等の理由から、肝Coへの情報伝達が十分とは言えなかった。また近年では郵送のコストも高騰しており、運営側の負担となっており対策が必要である。

そこで佐賀県では、肝Coの登録情報を一元管理するオンラインシステムを構築した。利用者は、個人の専用ページにログインすることで、名前や所属先、メールアドレスなどの連絡先、肝Co資格取得年度などの基本情報を確認・変更できる。また、システム上で肝Co向けの各種研修会への参加案内が届くので、簡単な手続きで参加登録を行うこともできる。また過去に参加した研修会の配布資料（電子媒体のみ）や参加証明書等（電子媒体で発行されるもののみ）も確認することができる。管理者側は、これらの情報を俯瞰することができ、研修会等の運営のために活用することができる。今後は登録者へのアンケート機能の追加など、さらに機能を拡張していく予定である。また、我々が肝Coの活動を支援するために開発・拡充し、研究班や佐賀大学のウェブサイトに掲載している様々な資材も、当システムから利用できるようにしていきたい。

A. 研究目的

現在厚生労働省が推進している肝炎医療コーディネーター（以下、肝 Co）制度は、平成 21 年に全国に先駆けて山梨県で肝炎ウイルス受検者や患者に対して理想的な意思決定を支援し、検査実施機関からかかりつけ医、専門医療機関の連携を密に行なうための橋渡し的な医療職として育成が始まった。さらに平成 23 年度から厚生労働省の推進事業として全国的に肝 Co の養成と配置が進められ、平成 29 年 4 月には全国での均てん化に向けて、厚生労働省健康局長から全国の都道府県知事に向けて肝 Co の養成と活用について基本的な考え方や養成、役割、活動について通達された。更に、令和 4 年 3 月 7 日に改正された肝炎対策基本指針において、「肝 Co の基本的な役割や活動内容等について、国が示す考え方を踏まえ、都道府県等においてこれらを明確にした上で育成を進めることが重要である」とされている。佐賀県でも 2011 ～2024 年度までに 2,431 名の肝 Co が養成されており、医療機関や行政、薬局、検査機関、あるいは企業など、県内各所で活躍している。毎年 200 名を定員として新規の肝 Co 養成を行ってきており、今後もさらに養成数は増加していく見込みである。しかしながら、肝 Co の連絡先や職場・所属先などの登録情報の管理には、新たな課題が出てきている。人事異動などがあっても登録情報を更新していない肝 Co もおり、研修会の案内などを郵送しても返送されてくることが少なくない。職場に電話等で確認し対応している状況であるが、こうした事務

的な負担の増加に加え、近年では郵送のコストも高騰しており、運営側の負担は増大してきている。

そこで佐賀県では、肝 Co の登録情報を一元管理するオンラインシステムを構築し対策を開始した。また、ヘパリングなどの肝 Co の活動を支援する資材の開発も並行して行った。

B. 研究方法および C. 結果

本研究班のウェブサイトの作成も行なっている株式会社サインズに依頼し、以下の機能を持つオンラインシステムを構築した。

【利用者向けの機能】

個人情報の登録・変更：氏名、メールアドレス、連絡先や郵送先の住所、勤務先の名称、職種について、利用者個人が入力し、確認・変更できる（図 1）。

連絡・通知機能：研修会の受講案内や管理者からの連絡が利用者宛に届くため確認できる。受講案内にある参加申し込みボタンをクリックするだけで、登録している個人情報が反映されるため、利用者は重複した情報の入力を省略して簡単に申し込むことができる。また、管理者に対して問合せを行うこともできる。研修会の履歴表示機能：過去に参加した研修会等の配布資料や参加証明書等をいつでも確認することができる。

開催中の研修会の聴講：参加申し込みを行い現在開催中の研修会は、このウェブサイト内で e-learning 形式で開催されるため、利用者は自分が参加すべき研修会をすべて同一サイトで閲覧することができる。また配布資料もダウンロード

することができる。(図 2)

佐賀肝Coシステム
HOME 受講者基本情報 受講申込 ログアウト DLコンテンツ 勝了登

佐賀 太郎さんのプロフィール情報
デジタルカードに登録

氏名: 佐賀 太郎
よみがな: さが たろう
メールアドレス: test1@ainainweb.jp
登録コース(選択): 令和6年度佐賀県肝炎疾患コーディネーター第2回スキルアップ研修会
生年月日: 1996-01-01(29歳)
性別: 男性
〒(市町): 8400918
郵便番号: 佐賀県
市区町村: 佐賀市北の郷
番地: 2-3-20
連絡先名: 電話 (携帯): 0952603100
勤務先: 佐賀県北医療センター

【図 1 : 受講者基本情報】

佐賀肝Coシステム
HOME 受講者基本情報 受講申込 ログアウト DLコンテンツ 勝了登

ダウロードコンテンツ
最新

研修会資料

第1部「肝疾患について」
・ウイルス性肝炎(日本版)
・肝炎初期と肝炎(日本版)
・肝炎・肝硬変・肝細胞癌(日本版)

第2部「態度・実例など」
・ウイルス性肝炎に関する実例集の紹介(日本版)
・肝炎初期と肝炎(日本版)
・肝炎患者の心理との繋わり方(日本版)
・肝炎ウイルスの感染性について(日本版)
・肝炎患者の両手薄解説

第3部「肝Co実践・指導編」
・肝炎患者の立場から(日本版)
・肝炎実習者の立場から(日本版)
・肝炎実習者の立場から(日本版)
・肝炎実習者の立場から(日本版)

【図 2 : 研修会配布資料】

【管理者向けの機能】

利用者向けの機能に加えて、以下の管理者向けの機能がある。

環境設定: 利用者のアクセス可能期間や制限等を設定できる。

研修会の設定: 新規開催予定の研修会を追加し、登録されている肝 Co に受講案内を送信することができる。申込者の中から受講が決定した者に対しては、受講決定通知を送信する。研修会毎に、講義動画や配布資料、アンケートを掲載でき

る。また、過去に開催された研修会における参加者の受講状況等を確認することができる。

登録者情報の確認: 利用者が登録した個人情報を確認することができる。職種や所属先等の情報をもとに、研修会のテーマの設定などに活用することができる。

【個人情報の保護について】

利用者が登録した個人情報は、佐賀県から佐賀大学医学部附属病院肝疾患センターが肝炎医療コーディネーター養成研修会・スキルアップ研修会等の委託を受けた期間においてのみ、閲覧可能としている。同研修会の運営に対してのみ利用可能であり、目的外使用はできない。現在は試作段階であるが、今後は佐賀県の肝炎医療コーディネーター担当部署のみ、常時閲覧できる権限を付与する予定である。

【その他】

肝 Co が患者に渡して自発的に健康習慣を実践できるように開発したヘパリングについて、今年度は新たに 10 品目を追加した。

- 1) シシリアンライス
- 2) シシリアンタコライス
- 3) カオマンガイ
- 4) サバ缶の生姜煮
- 5) ごちそう味噌汁
- 6) 生おからサラダ
- 7) 大豆香るトマタマ茸スープ
- 8) 芋栗豆の茶巾絞り
- 9) 黒豆おからケーキ
- 10) 赤酢のハニトマジュース



【図3：(例) カオマンガイ】

D. 考察

肝 Co ウェブシステムは、利用者と運営者の双方にとって利便性の高い設計がなされている。利用者は、自身の ID とパスワードを用いてマイページにアクセスし、過去の受講履歴や受講証明書、研修時のテキストなどを確認することができるようになっている。これにより、自身の履歴管理が容易になるだけでなく、証明書の再発行依頼などの手間も省かれる。

また、システム上には研修会のお知らせや案内が掲載され、そこから直接申込みを行うことが可能である。一度登録した個人情報は保持されるため、申込み時に毎回情報を入力する必要がなく、参加のハードルが大きく下がる仕組みとなっている。

さらに、プロフィール画面からは住所や勤務先などの変更が可能であり、従来のように県へ別途報告書を提出する必要

もなくなる。この点は、運営側にとっても名簿修正の手間が削減されるという利点がある。

運営側には管理者用の専用画面が用意されており、研修の募集状況や参加者数を一覧で確認できる他、将来的には受講履歴やコース別の検索機能、アンケート機能などの拡張が予定されている。システム開発は株式会社サイエンズが担当しており、今後の機能追加についても同社と連携を取りながら進められていく見込みである。

本システムの導入により、従来の紙ベースの情報管理から脱却し、情報の一元化と業務の効率化が大きく前進した。受講者にとっては、自身の情報をいつでも確認・更新できる利便性があり、修了証などもオンラインで即時に取得できる。また、研修への参加申込みも迅速かつ簡便となったことで、参加者の増加や負担軽減が期待される。

一方で、年配の方や IT に不慣れな利用者にとっては、システムの操作に困難を感じる可能性がある。現時点ではスマートフォンを使っていない利用者はほとんど見られないものの、ネット環境やリテラシーの格差にどう対応するかは引き続き検討すべき課題である。実際にネット環境が整っていない人には、会社のパソコンを利用して登録を行っている例もあり、柔軟な対応が求められる。

コスト面では、初期の開発費用は発生しているものの、運用に関しては月額数千円のサーバー維持費程度に抑えられている。ただし、今後の機能追加やバージョンアップには別途費用が必要であり、

予算確保の計画が重要となる。

今後の方針としては、アンケート機能や検索機能などの追加を検討している。また、本システムは佐賀県において試験運用を開始したが、他県が希望した場合にも対応できるように考慮してシステム設計を行なっている。

E. 結論

肝Coウェブシステムは、情報管理の効率化と研修参加の利便性向上を両立させた先進的な取り組みである。従来の郵送・紙ベースの煩雑な業務をデジタル化することで、登録者・運営者双方の負担を大幅に軽減した。本システムは今後も段階的な機能拡充を重ねることで、より高いユーザビリティを実現し、持続可能で柔軟な研修運営の基盤となることが期待される。また、他県への水平展開を通じて、全国的なモデルケースとなる可能性も秘めている。

F. 研究発表

1. 論文発表

- (1)瀬戸山博子、榎本大、佐藤光明、佐々木嶺、磯田広史、徳本良雄、池上正、小川浩司、井上貴子、井出達也、内田義人、加川建弘、立木佐知子、酒井規裕、永原天和、戸島洋貴、井上淳、島上哲朗、飯野勢、橋本まさみ、川田一仁、末次淳、澤田康司、朝井章、難波志穂子、遠藤美月、米田正人、是永匡紹. 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(第3報). 肝臓. 2023. 64(10):510-513.

2. 学会発表

- (1)原なぎさ、磯田広史、井上香、大枝敏、矢田ともみ、江口有一郎、高橋宏和. 拠点病院肝疾患センター管理栄養士が考える肝炎医療コーディネーターとしての役割と課題. 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A323(2024.04).
- (2)東本陽果、磯田広史、江口眞子、中西那月、高橋宏和. 拠点病院の医学生が肝炎医療コーディネーター活動を行う意義. 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A276(2024.04)
- (3)松永滝平(小城市民病院)、磯田広史、今泉龍之介、大枝敏、高橋宏和. ポストSVR時代に臨床検査技師が肝炎医療コーディネーターとしてできること. 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A277(2024.04)
- (4)常陸顕悟、磯田広史、今泉龍之介、東本陽果、野村理沙、中西那月、江口眞子、原なぎさ、井上香、大枝敏、江口有一郎、高橋宏和. 拠点病院の医学生の肝炎アラートへの対応状況と今後の活動について. 肝臓65巻 Suppl.3 Page A761(2024.10)
- (5)今泉龍之介、磯田広史、江口有一郎、矢田ともみ、高橋宏和. A県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の普及・活用の促進に向けた取組み. 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.3 Page A761(2024.10)

3. 書籍

なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし